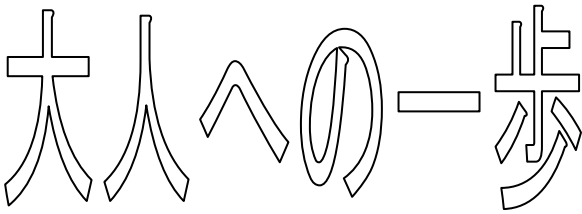


Forest

2012.2.3 3学年通信 第17号



自分の進路は自分で決める

・・・今回も中先生のお話から・・・

★ なたさんの本から

「こころ医者」と自称する精神科医のなたいなたさんの本『こころ医者の手帳』（毎日新聞社）を読んでいて、こんな文に出会いました。

旧制中学から医学部に進学する時だった。…惨憺(サツタン)たる成績簿を見ていた担任は「こんな成績では合格する見込みはないから医学部は諦めて、別の学校の別の科を受けろ」……というかと思えば、さにあらず、ただ一言、

「マグレってものもあるからなあ、頑張れや」といつてくれた。なぜか。彼は無責任だったから。

進路指導なんてことは、教師の限界の外だと考えていたからだ。

それで、生徒の好きにさせた。受けて落ちるのも本人の自由というわけだ。落ちて悩むのも生徒の人生と割り切っていた。

彼はこうして、自分の限界から向こうは、おまえの努力次第だよ、とぼくにボールを投げてよこしたのだ。言い換えれば、その時にぼくを自分に責任をもつおとなとして認めてくれたのだ。

(「教師の限界を知ろう」より抄録)

その後、なたさんはどうなったか？ じつは「マグレで医学部に合格」し、今にいたっているわけです。ほんとに結果というのはわからないものです。

ただ、合格するかどうかはわからないものではあるものの、「可能性」だけから見たら低いというのはわかっていたなたさんと先生。「マグレで受かる可能性と予想どおり受からない可能性」の両方をてんびんにかけて、結局「自分で決めて」いったなたさん。そして、それをなたさんの責任だとまかせてしまった担任の先生。どちらも、大人の痛快さを感じます。

★ 自分に責任をもつおとなとして認める

「自分に責任をもつおとなとして認める」という言葉の大切さを、みんなが決断をしていくこの時期に、よく考えます。そして、「自分の進路は自分で決める」という、いつも言っている言葉とあわせて、この号では、もうちょっとみんなと考えてみたいと思います。

みんなは今、「自分で選んでいく自分の人生」のスタート地点に立っているとも言えます。これから、進路を決めていくわけですが、選択の時期がせまってくると、「誰が選んだものでも、ともかくどこか学校が決まればいい」「どこか勤め先が決まればいい」と思ったりすることもあるかもしれません。「誰かに決めてもらいたい」とさえ思うかもしれません。

また、「中学生のみんなには難しいから、他の大人がいろいろ面倒を見たり、決定を下したりした方が親切じゃないだろうか。また、そうしないのはかわいそう」という意見を聞くこともあるでしょう。

けれども、「自分の人生は自分が主人公。他の誰も代わることはできないもの」です。せっかくの自分の人生、その結果を含めて、自分で選んでいってほしいと思います。そうやって「自分の進路は自分で決める」ことが、

なださんが言うように「〈自分に責任をもつおとな〉と認められること」だと思えば、みんなにとって、この選択が「大人への大事な一歩」と思えてきます。

そういう大事なチャンスを、大人の私たちも応援していきたいと思っています。

☆ 自分の居場所は自分で探す

ところで、絵本作家の五味太郎さんの本、『大人問題』（講談社）の中に、こんな文を見つけました。

この歳になってつくづく、人生というのは自分の居場所を探すことなんだなあと思います。ぼくもずっと探してきたような気がするし、自分の子どもたちを見ている、それ以上にそういう気がするのです。その居場所をパワフルに自分で見つけられる子もいればちょっとパワーが足りなくて見つけられない子もいるはずです。でもやっぱりあてがいぶちの居場所はダメです。居場所はどんなことをしてでも自分で見出すしかありません。そして子どもたちが自分の居場所を見つけることについて、大人が必要なときにどれだけ手を貸してやれるかが勝負なんだろうと思います。

—「あてがいぶちの居場所」というのは、「大人が〈こうすべき、こうしたほうがいい〉」と、最後の選択を押しつけてしまうことを言うのでしょうか。

「居場所はどんなことをしてでも自分で見出すしかありません」という言葉は、「自分の進路は自分で決める」ということと、きつと同じ意味だと思います。

五味さんの文は、「大人の役割についても、いろいろ考えさせられます。「決定は子どもにまかせつつ、子どもを応援していく」ことが大人の役割と、言えるのではないのでしょうか。

「自分で決める」というのは、簡単なことではありません。

「自分の選択が正しいかどうか」などということは、じつは誰にも—他人はもちろん本人にも—わからないことです。

そしてまた、今回の選択でこの後のすべてが決まるというものではなくて、長い人生、自分の選択を変えていくチャンスはいつでもあります。その時はいいと思ったことでも、「これでいいのか？」と悩んだりすることは必ずあることですね。

じつは、考えてみると、中学の時は「教員になろう！」なんていう気持ちは、ほんのひとかけらもなく、なんとなく技術者になりたいなあと思って、高専の電気科に進学したことを思い出します。（その後、いろいろありました）ところが、今は、中学の時には全く考えていなかった教員になって、なんとはなしに楽しくみんなに理科を教えています。

結局、そういう選択は「とりあえず決めていくしかないもの」。

けれども、そうやって自分で選んでいくからこそ、〈どっちに転んでもシメタ〉で生きていけそうに思えるのです。

みんなの選択を最後まで応援したいと思います。

※

推薦入試の結果が出てホッとしている子もいます。

こんどは公立高校の後期選抜。決断の時期をむかえてきました。迷っている場合には相談してください。けど、最後に決めるのは自分。自分で悔いのない決定をしていてくれることを願っています。

風邪もはやっています。体にはくれぐれも気をつけてね。

・・・^{なか}中先生のお話、いかがでしたか？

最後に、何年か前の卒業生に書いてもらった、入試報告の中のアドバイスを載せておきます。書いてくれた卒業生たちの顔を思いだしながら、きっと、いろいろな失敗に出会いながら、自分の生活をさぐっていく途中なんだろうなあと思いつつ……。参考にしてください。

○ 本番はどうしても緊張しちゃうけど、結果はなるようにしかありません。だから結果ばかりにこだわらず、気を楽に持って試験にのぞめればBESTだと思います。私立 推薦 女子

○ とにかく落ち着くこと。自分に『だいじょうぶだ！』って言い聞かせ、深呼吸をしてね。あと、緊張して声が小さくなるから（絶対に）それだけは注意して下さい。私立 併願 女子

○ 試験は難しいので、「過去問」などをいっぱいやって問題になれることがポイント。私併男

○ 私の場合、同じ中学校の人がいなかったの、最初から最後まで1人だったけど、休み時間や面接を待つとき、落ち着かないで話をしている人ばかりいる中で、心を落ち着けて集中することができた。私立 併願 女子

○ 3教科ともテストは落ち着いてやれば、北の台で学習したことで十分足ります。あせりは禁物です。分からない問題は後回しにして分かるものを一問一問着実に解いていった方がよいと思います。あと、朝が早いとお腹が空くので、朝はいつもよりたくさん食べていくと良いかも知れません。私立併願 女子

○ 出発時刻が早すぎるかなと思ったけれど、もっと早くから来ている人たちや同じくらいの時刻に来ている人たちが結構たくさんいた。それから、いつもなら30分くらいでいけるのに、1時間15分もかかった。早く出て良かった。私立 推薦 男子

○ 結構、模擬テストを受けておくと、本番はそれほど緊張しなくなります。同じ高校を受ける友達と行けばなおいいと思います。公立 女子

○ 過去問にないところも少しは見ておかないと、本番で予想してない問題が出てあせる。余裕がないときは、過去問を確実にしておいた方がよい。公立 女子

○ 過去問はあくまでも過去問であって、予想問題ではありません。過去問ができたからと調子づいていると、本番で地獄を見るかも

知れません。慎重に！慎重に！でも、できた方がよいのはもちろんですが。公立 男子

○ だんだんと問題の傾向が変わってきてるので、過去の問題とは違った問題が出される可能性が大きいので、余裕があれば、幅広く勉強しておいた方がよいのではないのでしょうか。公立 男子

○ 試験会場でテストの答え合わせはしない方がよい。間違っているのが分かると、次の試験に、あせって、変にプレッシャーがかかる。また、不安になるので、会場で「何々は、△△とか、何番の答えは□□」などという会話を気にしないで、次の教科に集中する。公立 女子

○ 少しでも時間があまっていたら、ポーズとしてしないで、しつこく見直すことが大切。公立 男子

○ 休み時間に答え合わせやペチャペチャ話をしていると、次に集中できないぞ！公立 女子

合格後にみなさんの真価を問われます。すでに、他の人を心配して勉強につきあうなど、ステキな姿を見せてくれている人たちもいます。授業はもちろん、休み時間にも必死に勉強している人に協力してくださいね。